



森のなかま

2008年10月号

NO. 6 (継続151)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp> 発行人 島岡 功

自然観察部会の活動

自然観察部会長 野田重雄

自然観察部会は、都会生活で自然から離れてしまった人たちや自然の中で活動してはいるものの自然に目が向いていない人々やそのご家族などを対象として、自然にもっと親しんでもらい、自然の美しさや素晴らしさを知ってもらうとともに、自然の大切さに気付いてもらうように、森林探訪を県のサポートの元に年に3-4回開催しています。

先日も「秋草いっぱいの仙石原を！」ということで100名の方々を募集し、18名のインストラクターでご案内をいたしました。時期的に秋の草花には少々早かったようですが、それでもオミナエシを始めノコンギク、シロヨメナ、ユウガギク、シラヤマギクなど秋の野菊類や、オオヒナノウスツボ、トンボソウ、キントキヒゴタイ、ツチアケビ、ヒキオコシ、ミヤコアザミ、サワヒヨドリ、テンニンソウなど普段見られない沢山の草花に出会うことができました。

また、箱根町の50周年記念行事の一つとして、訪れる人々に美しい自然を楽しんでもらうために、園路沿いにある暗く変化に乏しい植林地を、季節ごとに変化する落葉広葉樹の景観林にかえている場所がありました。

間伐され落葉広葉樹が植えられた場所は、地表に光が当り始め下草が青々と茂っていましたが、後方の植林地は暗く下草は全く見られませんでした。

落葉広葉樹を植えるために間伐し光が当り始めた場所では、下草が十分に生え地表がしっかりと守られ、水源涵養や土砂流失防止などに大きく役立っていることが分かります。

参加された方々は、草花の説明だけでなく、このように自然の素晴らしさや大切さの説明を聞くことにより、何気なく見ていた自然の大切さに気付かれます。

そして、アンケートにはインストラクターとともに観察することで知識が増え、自然の大切さを知ることができ大変良かったと書かれていることが多いのですが、参加者の中には知識の豊富な方が居られ厳しい言葉を頂戴することもあります。

そこで、我々自身のレベルアップを図るために、森林探訪の下見は3回行い、会員を対象としたブラッシュアップや観察会も行っております。

どうぞ我々森林インストラクターとともに歩き、自然のよさ、大切さを見つけませんか。 以上

かながわのテッペン

— ヒル帽子 —

飯村 武

西丹沢の人たちは、蛭ガ岳のことを「ヒル帽子」と呼んでいる。ヒルとは獵師が冠った山頭巾のことで、言われてみれば成程、蛭ガ岳の山容はこのヒルをイメージし、それは横浜・川崎から眺めてもほぼ同じだ。

獵師にとってヒルは寒暑や埃を防ぎ、ファッションであるばかりでなく獲物との物々交換、例えば米などを量るときにも用い、いわば度量器がわりにもなった。また、ヒルとは「箕」の古語で、蛭ガ岳の山熊が箕を伏せた形に似ているのでこの名になったとの説もある。ちなみに、箕は穀類をあおって穀などを除く農具の一種で、竹・藤・桜などの皮を編んで作る。ともかく、ヒル帽子は獵師や好々爺のファッションのように思われがちだが、案外若い男女にも似合いそうで、流行ること必定と見ている。

ヒル帽子こと、蛭ガ岳を極めるには4つのコースがある。ポピュラーなのは塔ガ岳・丹沢山経由。鬼ガ岩ノ頭に辿り着けば山頂は目前、疲労は吹ッ飛び最後を駆け登る。遂にやったの達成感、富士の眺望がエールを送る。

次いで姫(女辺に巨)次経由の北斜面。呼吸に合わせてスタスタと、何時の間にやらテッペンへ。御袋の味にあやされるように。西方は檜洞丸から臼ガ岳を経て。アップ・ダウン何のその、唯只管にテッペンへ。ここは丹沢の奥座敷、弱音は禁物で御座る。最後は幽神・熊木沢遡上の直登。ガレ場、関東大震災傷跡、胸突き八丁、やっとの思いでテッペンへ。無言。

ヒル帽子がカメラにおさまるのは鬼ガ岩からが多いようだ。カメラマンとすれば「かながわのテッペン様」の思いを込めてパチリと及ぶのだろうが、思い描いた壮観!には程遠く、ヒルはどこまでも山頭巾然。思い余ったカメラマン君、前景に鬼ガ岩の巨岩・奇岩、はたまた立ち枯れ巨木を据えるなど、際立つ容姿求めて撮りまくるが、テッペン様は山頭巾こそ俺の素顔とばかりに、いつも澄顔だ。よくよく見ると「丹沢の自然に矢鱈に手を出すな」と言っているようでもある。

西丹沢・玄倉林道の終点が幽神である。1955(昭和30)年ごろ、ここに県林務課所管木造平屋建ての山荘があった。山崎の爺さん夫婦がこの山荘の管理人をしていた。爺さんの気骨は四界に響きわたり、時の林務課長の信は特段に厚かった。言うこと為すこと丹沢をひとりで背負っていたような人で、いわば丹沢のご意見番。マナーの悪い生意気登山者には滅法厳しかった。

爺さんには自慢のネタが2つあった。その一つは若いころ(昭和初期)東京両国でコーヒー喫茶を営んでいたこと、もう一つは政治活動が3度の飯より好きだったことだが、後者のエピソードは次のようだ。

憲政会だか政友会だかその所属は忘れたが、院外団として国会議事堂周辺をしょっちゅうデモッていた。あるとき、若干年下の若者と擦れ違った。袖擦り合うも他生の縁とばかりに年下に檄を飛ばした。すると年下は青年山崎を睨みつけ、大音声で怒鳴り返してきた。大音声の主は人間機関車こと、後の日本社会党委員長浅沼稻次郎君そのヒト。但し、檄も大音声もその中身は全く不明のまま。中身はともかく、爺さんの言わんとするところは、俺は曲がったことが大嫌いで、常に時代の最先端を行かねば気が済まぬということだった。昭和の初期、東京音頭盛んなりし花の都のド真ん中でコーヒーの匂いをプンプンさせ、はたまた後の大物政治家と怒鳴り合うなんてそうそう出来ることではない。

爺さんは鉄砲はやらなかったが、いつもヒル帽子を冠り、またそれがよく似合った。蛭ガ岳の気張らない山容がとことん好きで蛭ガ岳こそ丹沢や箱根の山々の象徴であり、神奈川の社会・産業・経済・歴史・文化の総元締めだと、事あるごとに口にしていた。



* 雪の鍋割山頂より蛭ガ岳を望む (S37年2月撮影)

右から塔ガ岳、丹沢山、不動の峰、棚沢の頭、蛭ガ岳、ミカゲ沢の頭、臼ヶ岳そして檜洞丸(ヒノキボラマル)へと続く。



蛭ガ岳山荘と薬師如来 (S36年8月撮影)

(広報部：2枚の写真は飯村様の了解を得て掲載しました。写真提供：村井)

酒樽のこと(その1) 鈴木友二(3期)

1年半前、私は或る海外プロジェクトに発注者側として従事することになり、当該プロジェクトを受注した日本の企業に向滞在することになった。

数日後、プロジェクトの成功を祈念して、受注した日本の企業が、みなとみらいの某ホテルでキックオフを兼ねた祝賀パーティを開くことになり、我々発注側も招待された。我々のグループは日本人は数人のみで、40名を超える招待者は、ほとんどが日本に駐在していた外国人及びその家族であった。

発注側、受注側の代表のお決まりのスピーチの後、日本の習慣に従い、代表二人は赤い法被を纏い、こも被りの鏡開きを行った。開かれた酒樽のサケは、パーティ参加者全員にふるまわれた(勿論、未成年者には遠慮願ったようだが)。

サケを愛する者として、枡のふちに塩を載せて、その塩を舐めながら楽しむ、サケの正統的な飲み方を、廻りの外国人に伝授したのは言うまでもない。

酒樽から枡に注いだばかりの強烈な香りを醸し出す液体、外国人には非常にエキゾチックな飲み物だと思うが、一体、外国人はどう思うかいささか興味がわき、4、5人に訊いてみたところ、非常に好評であった。

それが外交辞令でないことは、1時間後、彼らのメートルがかなり上がっていたことから明白である。

杉(スギ *Cryptomeria japonica*)が、酒樽及び枡に使われていることは論を待たない。スギは日本特産だそうである。確かに、英国の誇る王立キューガーデン(プラントハンターの戦利品展示場?)で、私はヒノキ、マツの仲間は数多く見たが、スギのあの独特な葉を持つ植物を他に見た記憶はない。

では、著名な植物学者でもあるシーボルトは、一体、日本のスギを西欧にどう紹介しているのかが気になり、日本植物誌(本文覚書編)を見たところ、何とスギについて14ページを割いていた!

他の植物は数行から、せいぜい3ページしか記述していないことからみると、彼がいかにスギへの思い入れが強かったかが窺い知れる。

詳しくは、当該書物(八坂書房)を見て頂きたい。

花粉症の原因要素の一つとして、日本のスギは、目下、肩身の狭い思いをしている。しかしながら、私は、スギこそ日本が世界に誇るべき樹木の一つであると確信している。

縄文杉に木登りする

1970年 夏

縄文杉1



縄文杉2



* やどりき森の案内人活動チームからの お知らせ&お願い

***管理棟に、かねてからの懸案でありました緊急対応用の電話が設置されました。**

電話番号：0465-89-4000

fax 機能も同番号で利用できます。

設置時期：平成20年9月19日

使用心得：あくまでも**緊急対応の電話**であり、**私用には使わないよう**にお願いします。

***インセクト・ボイゾン・リムーバー(蜂などにさされた時の毒の吸出し器具)が現在管理棟に10セット設置されてます。利用方法等を(緊急時に利用できるように)確認ください。**

「視覚障害者の森林教室」体験 武川俊二（6期）

かながわ森林インストラクターが軸となって活動する「NPO法人丹沢森の仲間たち」が去る8月9日、丹沢・世附のフィールドで視覚障害者のための森林教室を開催しました。この事業は、県の土地水資源課からの助成を受け「視覚にハンディキャップを負った方々を森林に案内する」をテーマに実施されました。前日、山北町の視覚障害者介護ボランティアの方と福祉課の方に事前研修を行っていただき、障害者に向き合う姿勢について学びました。開催当日は、7名の視覚障害者とそのサポートの方が世附フィールドにやってきました。受け入れ側からもアイマスクをして擬似視覚障害者となり参加しました。インストラクター10期の仲間には、点字翻訳ができるメンバーもいて、10期のメンバーは、皆点字名刺を持ち自己紹介をしていました。たった1日の体験でしたが、総勢18名のインストラクターが参加し、それぞれ普段の活動とは違った経験を持ち帰ったことと思います。この体験記を書いた前田さんは丹沢森の仲間のメンバーで現在、インストラクター11期の研修生です。

「アイマスクをして」 前田裕司

「はい、前田さんこれ持って」。アイマスクで視覚を遮断された私に竹の杖が渡された。小指ほどの細い杖で何が出来るのだろうか。ベンチに腰掛けているのはわかるが、周囲にどんな人が何人位いるのか、何をしているのかわからない。「ああ、私は何も見えない。だから動けない。病人や怪我人と同じなのだ。誰かが声を掛けてくれるまでじっとしているより他はないのだ。」自然とこのような考えに頭が支配され、周囲の人たちの言われるがままに動いていった。

「これがヒメジャラの葉ですよ。こっちに手を伸ばしてください。」右手を上の方へ伸ばすと枝葉に触った。ヒメジャラは山の中で見たことは何度もあるし、他人に「この木はヒメジャラといいまして…」と説明したこともある。しかし、葉を触ったのは初めてであった。今までは葉を見ただけで判った気になっていたが、触って初めて細かい毛のあることに気がついた。見えないのに新しく発見することがあるのだから不思議である。

「こぼれるから水平に持ってくださいね。」と言われて渡されたカレーライス。物を水平に保つのがこんなに難しいとは思わなかった。さらに難しいのがカレーライスをスプーンですくって口に運ぶことである。スプーンの上に何がどれだけのっているのかわからないのでとにかく口を大きく開ける。口に運んだつもりが唇に当たって口の周りを汚してしまう。また、スプーンが裏返しになって何もすくえないこともあった。見えていれば有り得ない事である。カレーだと思って食べているのに突然、硬いものが口に入り、何だと思ったら付け合せのピクルスだった。そんな訳で準備された方には申し訳ないが、カレーライスの味をゆっくり味わうどころではなかった。

「新井さん、こちらは前田さんといまして…」。昼休みにやっと食事を終え、退屈そうにしていると声を掛けられた。受け身な状態になっているので自発的に行動を起こすことなどなかったのが、会話を交わすことも無かった。だからこのようなスタッフの声掛けが心の支えになった。パン作りやボードクライミング、その他のアクティビティに参加できたのもスタッフの方々の誘導のお陰だった。特にボードクライミングでは手足を伸ばし4m余りの高さまで登ることができて満足したし、パン作りでは感触を頼りにパン生地を成型していくのも楽しかった。初めは言われるがままに動いていたが、そのうちに「次はあれがやりたい」と思うようになった。

「やりたい」という思いに対して、障害者のおかれた立場は満足な状態ではないだろう。それは毎週日曜日にラジオで放送されている「視覚障害者のみなさんへ」という番組を聴いても良くわかる。とくに日常生活からはかけ離れた自然の中へ入っていくことなどは「行きたい」と思っても実現しにくいに違いない。そのような中で今回の森林教室を開いた“丹沢森の仲間たち”の活動は障害者の未来を明るく照らすものだと思う。障害の有無に係わらず困難と思われることを多くの人が支えあって実現していける社会を“豊かな社会”というのだろう。今回の森林教室に参加して、アイマスクの向こうに豊かな社会が見えてきた。



山菜を楽しむ

その7 可愛い！ カラスノエンドウ (B) 有田保彰

カラスとかイヌとか動物の名前がつく植物は、本物ではないとか役に立たないとか、否定的なニュアンスがあります。

ですが、カラスザンショウ、カラスビシャク、カラスムギ、カラスウリ、カラスノエンドウとカラスがつくものは、たまたま、どれも山菜か薬草として利用されているようです。

カラスノエンドウは、ミニ・スイートピーと呼べそうなピンクの濃淡の花、行儀良く並んだ小葉やその先の印象的なヒゲ、ママゴト遊びでサヤエンドウ代わりになる豆、一面のお花畑のような茂みの風情、どれもみな素敵です。

僕だったらカラスではなくスズメノエンドウという名にするよ、などと減らず口をたたいていたら、実は、本当にスズメノエンドウという草が実在するそうなんです。さらにその二つの間のももあって、カラスの「カ」とスズメの「ス」そして間の「マ」をとって、カスマグサというとか。

いやはや知らないということは恐ろしい！！

さて、クワに続いてノンカフェイン「茶」の話です。先日、高知のキジマメ茶というものを喫んだのですが、あまりクセもなくいけました。どう見ても、カラスノエンドウを驚掴みにして乱暴に引きちぎって、花も、葉も、若い実も、熟した実も、茎も、みんなゴチャ混ぜに干したようなものでした。早速、庭にはびこっているカラスノエンドウで作ってみました。なかなかいい感じでした。これまでチャノキはもちろん、クワ、カキ、ビワなどお茶に作ってみましたが、一体どれくらいの植物が、お茶あるいは煎じ薬として利用されるのかと思って、手元の資料で調べ始めてみたら、あるわあるわ、あまりにも多いので数えるのをあきらめたほどでした。

ここで我流の簡便製茶法をご紹介します。要は、いかに手早く細胞を壊し、水分を取るかという問題です。

最初、焙炉の代わりに鍋で煎ると教わったのですが、どうしても上手く出来ませんでした。そこで電子レンジの登場です。まずは2、3分チーンをします。湿ってしなっとなってきたら、テーブルの上に広げた大きな紙にボサッと置き、両方の手でフワッフワッと放り上げます。熱を取ると同時に水分も飛ばすのです。またチーン、

そしてフワッフワッ..この作業をただひたすら繰り返します。濡れた葉が、お互いにペツタリくつつくと乾きにくいので、ていねいにはがしながらフワッ、フワッを繰り返します。

ここでチャ、カキ、クワなどは、両手で強く揉みますが、カラスノエンドウの場合は、この作業は省略できます。あらかじめ乾いてきたら、フライパンで、焦がさないよう弱火にして炒ります。カサッ、シャリッ、と高い音になったら、ほぼ出来上がりです。当然花はしおれて赤系が褪せ青紫系の色になりますが、その色がもじゃもじゃしたくすんだ緑色の中に、チラチラ見え隠れするのも一つのチャームポイントです。

焦げてしまうと、ウーロン茶でも、紅茶でも、ほうじ茶でもない妙なお茶になってしまいます。

ビワ茶などピンクで綺麗だと聞いていましたが、焦がしたためか、茶褐色になってしまいました。

いつも緑茶を買う店では、煎茶は、緑色でも茶色でもなく、金色にいれるのがベストですと言っています。でも「茶」色というと褐色系の色ですよ。

カラスノエンドウもハマエンドウも、本物のサヤエンドウと同じように、サヤはもちろん、芽先も豆苗として食べられます。両方ともまあまあですがランクとしてはBでしょうか。

他に、お浸し、和えもの、炒めものとしても利用できます。

味はともかく、あまりにも可愛いので選んでみました。(つづく)



画 有田保彰

活動短信

7/13～8/17

ボーイスカウトかながわの森づくり

日 7月13日(日)
場 秦野市寺山(寺山水源林)
参 245名
イ L森本⑤、渡辺③、柏倉④、本多④、出口④戸谷⑥、宮本隆⑥、白畑⑦、山崎⑦、齋藤彰⑧、佐藤保⑧、野牛⑧、酒井⑩、中元⑩、宮下⑩、計15名

公 金子理事長、工藤
 ・曇天の下刈日和に恵まれて、9年目の下刈作業も無事に終了。
 ・全体の生育はよくないものの、一部、補植地が設けられていたのが嬉しい。
 ・(ご参考)BS小田原地区のHPから、森林愛護の手引き「私の森林愛護章」がダウンロード出来ます。
http://www.scouts-odawara.com/forest/protecti_on2_2.pdf.pdf (記 5期 森本)

小学4、5年生、体験学習

日 7月21日(月) 10時半～11時半
場 足柄森林公園 丸太の森
参 横浜市立釜利谷西小学校 約80名
 (4年生38名、5年生36名、教員10名)
イ 渡辺(孝)③、落合③、武者⑦、山崎⑦、加藤⑧、時田⑩、松山⑩

晴天のこの日、10:20、丸太の森「けやき広場」に子供達が元気に集合しました。
 渡辺リーダーによる目的や注意事項等の説明の後、自己紹介。7班に分かれ、けやき広場を中心に左右から、班ごとに交互に出発しました。
 白い山ゆりが下見の時よりさらに咲き競っており、さっそく、山ゆりは県の花と説明。森林のはたらきや、水源林の役割等を説明した後、木に触れたり、樹液に触れたり、木や葉の香りをかいだり、目を閉じて鳥の声や、木の葉の音を聞いたり五感を刺激して森を感じてもらいました。見晴らし広場に登ると、足柄平野を望め、「ヤッホー」とあちこちで声が聞こえ、子供達も森を楽しんでいるようでした。
 子供達の中から何人かは将来、森林ボランティアに参加してくれるでしょうか?下見の時には偵察に現れたスズメバチに遭遇することもなく、事故・怪我もなく無事終了しました。この森の下方では全国の植樹祭の会場となっているため、準備が進められておりました。先輩の皆様にご指導いただき、交流できる事は、10期の私には良い経験となり、嬉しい事です。成長して行けるよう努力していこうと思えました。(記 10期 時田)

NEC[半導体の森]間伐・木工教室

日 7月26日(土) 晴 10時～14時
場 やどりき水源林
参 NECエレクトロニクス(株)23名(内子供7名)

イ L落合③、中島⑨、篠木⑦、
 集会棟前広場にてオリエンテーリング、午前の活動は「半導体の森」での間伐作業体験。立ち木を切る作業は、参加者の半数が初めての体験でもヤルキ満々の空気が伝わってくる。3班に班分後、道具倉庫横の広場に移動。ヘルメット・鋸を装着後、間伐作業を安全に行う為の注意ストレッチを行った後、「半導体の森」へ移動。森を背にして、まずは記念撮影。その後班毎に入山し、あらかじめ選木されていたスギ、ヒノキの間伐作業開始。木が倒れる瞬間、やや興奮気味の大きな声が森に木霊する。伐倒後の玉切り・枝払い作業も真剣そのものでそんな活動風景をTVKのカメラが追ってくる。(9月28日放映)伐倒本数では、落合、中島班は各3本ずつ。私の班は、かかり木(原因は受け口切り角度の甘さと伐倒方向)処理作業の時間も2本。(都合8本)

11時30分、無事作業を終えて下山。鋸の手入れを済ませ、川原で昼食。午後は中島さん主導で木工。作品としては、コースター・トトロの森・バードコール・ペーパーナイフ・シャベル・うぐいす笛・竹とんぼ・木の実のオブジェなど。少ない時間ではあったが、楽しく満足感の味わえた工作体験。これも事前に準備された、材料、道具、電動工具などがあってのこと。(中島さんに感謝)。最後にリーダーの落合さんご苦労さまでした。(記 7期 篠木)

青春の旅・森林ボランティア

日 8月2日(土) 10時～12時
場 明治市民センター
参 約30名(中学生中心)
イ 宮本④

8月17日に実施予定の21世紀の森に於ける、「竹伐」「竹工作」の事前研修で「森の講座」、とくにCO2絡みの話をして欲しいという事であった。以下、講話のテーマのみ記載する。

- 地球の温暖化はどうして起こるのでしょうか。(1) 温暖化のしくみ、(2) 温暖化の影響 (3) CO2はどこから出るの
- 森林が何故温暖化防止に必要なのでしょうか。(1) 植物の食べもの (2) 光合成のしくみ
- 森からのめぐみ：水を大切にしよう
- 森の不思議：「フィトンチッド」の話
- 神奈川県森林づくり。(1) ビデオ「神奈川の森林と林業のはなし」(2) 50年先を目指した森林づくり
- 植物って面白い (記 4期 宮本)

森林レクレーションと飯ごう炊飯

日 8月6日 9時～15時 晴れ
場 小田原市いこいの森
参 49名(子供33名)
イ 武者⑦久保寺⑦山崎⑦加藤⑧
 小田原市森林組合：佐藤

本活動は保護者同伴で子供さんに参加頂き、レクレーション形式で楽しみながらのびのび森林体験をして頂こうと言う計画で、虫かごや捕獲アミ等を持ち定員30名のところ49名が参加した。活動は午前(9.00～11.00)、昼食(11.00～13.00)と午後(13.00～15.00)

の3部構成で、午前はいこいの森を自然観察をしながら散策し、丸太の遊具や昆虫採種等を楽しみながら森に親しんで頂いた。取れた昆虫はセミとその抜け殻程度で、あとは沢ガニやトカゲ等であったが、それでも得意になって見せに来る子もいた。昼食は飯ごうでの炊飯の仕方を組合の佐藤さんが説明後、子供達の米研ぎから始まった。マッチで火を付けたことのない子供、薪で調理をしたことのないお母さん等の集まりであったが、我々の指導がよろしかったせいかまずまずの出来で、ライスカレーの味も格別であった。午後は坊所川を渡り森を抜け森林組合ドバへ行き丸太切りを行った。最初ぎこちなく親に手伝って貰っていた子も終わる頃はスムーズに切れるようになり、何度も挑戦し、作ったコースターを虫かごに入れ持ち帰る子もいた。丸太切りの後はふれあいの丘に行き、自由に時間の許す限り楽しんで頂いた。最後に子供達の感想を聞いたところ楽しかったのでまた来たいとのことであり、親のアンケートも大部分の方は大満足とのことであった。

(記 8期 加藤)

森林づくり体験講座

日 8月6日(水) 晴れ
場 小田原市外2ヶ市町組合有林 (6年生ヒノキ林)
参 県内中学生・高校生 40名(申込43名)
講師 川又正人氏
公 茂木、稲葉、河野、小林、鳥海、他看護師、機材運搬 担当各1名
イ L大道⑥ 山崎④、小清水⑤、斉藤(彰)⑧、中元⑩、松山⑩、海野⑩、

森林・林業について親しみ、理解を深めるきっかけとするを、ねらいとした。中・校生を対象に企画されたボランティア体験講座である。ヒノキ林の下刈りを主とし、コマ研ぎ・竹箸作り・流しそーめん・森林講座と盛り沢山のプログラムが組まれている。

連日暑い日が続く少しは、涼しい日であってくればと期待をしたが、相変わらずの日差しと気温・湿度である。しかし応募した中・高校生の出席率は高く43名申込中40名が時間厳守で集合。現地では何時もの如く活動前の作業説明と安全注意、ストレッチ体操を行い、各班に分かれインストラクターのレクチャーを受け下刈り作業が開始された。作業開始前は少し元気に欠けているような気がした参加者も大きなコマを使うように成ると暑さと戦いながら元気よく活動、特に中学生の働き振りに各担当インストラクターから感心の報告が寄せられた。

作業後半は持参していた水を飲み干し、公社準備の予備の水補給を受けながらの活動と成ったが時間内に予定エリアを怪我人を出すこと無く完了した。その後コマ研ぎ体験、竹箸作りと続き午前の部が終了。昼食は場所を移し「ふれあいの森キャンプ場」で、公社スタッフに準備して頂いた流しそーめんである。そーめんを運ぶ人、流す人、食べる人と和気あいあい楽しい昼食時間を過ごした。午後の部は、杉林の木陰で川又講師による「森林からのメッセージ」をテーマに森や木について興味深い話しに耳を傾けていた。最

後にアンケート記入、体験感想を伺い、ボランティア参加証明の授与を行い全てのプログラムが終了した。

(記 6期 大道)

企業庁下草刈り等体験イベント

日 8月9日 9時～15時半 晴れ
場 宮が瀬湖畔園地内
参 38名(子供9名)
イ 柏倉④、落合③、相馬⑤、加藤⑧、
企 平本、新藤外5名

本活動は下草刈り等の体験を通し県営水道利用者に水源林保全のための取り組み、水源林の大切さや水道事業への理解と関心を深めて頂くために企業庁が主催したもので、バス内でビデオ「地球水道」を見ながら作業現場の宮が瀬に向かった。現場は平坦であったが背丈を越すすすきが生い茂っていた。炎天下の作業であったので一人の方が気分を悪くし看護師さんの世話になったが、皆の頑張りにより思いの外早くきれいに刈り上がったので、企業庁の方の判断で早めに切り上げた。もう少しやりたかったと言う人も2～3人いたが、大部分の方は汗を流し心地よい達成感が得られた満足すべき体験になったようである。

午後は宮が瀬ダム・水とエネルギー館を自由に見学し、芦ノ湖と同じ4億m³と言う水を貯えたダムと水利用に関する認識を深めて頂いたが、雷も鳴り、暗雲も広がり雨も降り出したので、予定を30分早めて帰路についた。帰りのバス内で、柏倉リーダーが200年天皇皇后陛下をお招きし神奈川県で初めて開かれる全国植樹祭の話がされたが、植樹祭を知っておられた方は1人しかおられなかったため、10/18の森林の集いにも参加され盛り上げてくれるようお願いした。今回の体験を通し、水源林への理解と関心を高めることが出来たものと思っている。(記 8期 加藤)

全国のコカコーラ「森に学ぼう」プロジェクト

日 8月17日(日) 10時～12時
場 宮ヶ瀬湖畔園地
参 一般募集87名(予定100名)
共催 コカ・コーラセントラルジャパン(株)、宮ヶ瀬ダム周辺振興財団

イ L浦野⑧、森本⑤、相馬⑤、小野⑦、加藤⑧

午前には森林保全体験学習、午後にカヌー教室、自然観察教室などの内容で、参加者は小中学生を伴った親子連れであった。我々は森林保全体験としての下草刈の指導と紙芝居を使った森林保全の大切さの話を担当した。団3名は前者、2名は後者を担当、2班に分かれた参加者は交代で体験してもらった。幸い？霧雨が断続する天候で真夏の暑さはなく、下草刈は小さい子どもには鎌を渡さずに親子での共同作業としてもらったが、声を掛け合いながらほほえましい内にあっという間に時間終了。残念なことはヤマビルの被害が多数に上ったこと、用意されていた防虫スプレーを使ったがこれは効果なかったようです。塩も用意されていたが時間的な問題から使えなかった。

なお、この企画は3回目ですが毎回団が派遣されている中で、主催者側は派遣団が要領を承知していると考えている様子があり、今回初めての派遣で戸惑うことが多かった。このことから継続的なネットワーク活動への派遣団は過去に経験した人を中心に選任されることが、相手側との良好な関係構築のためにも、必要と考えます。(記 8期 浦野)

編集後記

★初めてテキストお越しのお手伝いをしました。頂いた原稿、読んでいくとその漢字使いに自分の不勉強を痛感させられました。(森)

★夏から秋は「祭り」の時期です。御興(NPO)はかつぐもの。ぶら下っている人は、いませんか。(森本)

★無料配布用のどんぐりポット(1セット原価10~30円)を考えてみました。材料が分かれています。自分でセットし春に芽が出るのを楽しむものです。詳しくは、10期のホームページ http://members2.jcom.home.ne.jp/kanagawa-10th-forester/top1.html または私までご連絡ください。(金森)

★ブラシュアップ研修で「成長の森」の木材搬出作業を見学しました。500mもの架線を張り、キャリアに吊るして運ぶのですが、木材搬出の大変さを改めて実感しました。(井出)

★年2回、富士山の真上を夕陽が沈みます。「ダイヤモンド富士」と言い今年は2月と10月16日~18日あたりがチャンスのようなようです。(村井)



鍋割山荘ホームページより

年間購読のお申し込み

・「森のなかま」年間購読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込みください。

郵便振替口座 00230-0-2454

・かながわ森林インストラクターの会宛まで購読料年2000円をお振込みください。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記してください。

振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。

(頒 価 200円 送料共)

編集人: 森本正信

広報部: 井出恒夫、鈴木松弘、村井正孝、金森 巖 森 義徳

菌類のふしぎ

きのこカビと仲間たち

「菌類」(きのこ、カビ、酵母)は形も働きも驚くほど多様で動物や植物に匹敵する大きなグループです。日本初公開の太古のきのこ・光るきのこ・様々な色・形、大きさのきのこが集合、今秋、菌達が大冒険に参上!!

10/11

09 1/12

国立科学博物館 > 東京・上野公園

◇森のなかま原稿募集◇

会員・購読の皆様からの原稿を募集しています。写真、スケッチなども募集しております。

送先

<①手書き原稿送り先>

森 義徳

〒232-0053

横浜市南区井土ヶ谷下町16-3-202

Tel/090-5433-7784/Fax/<株リコー・森宛045-590-1910>

<②メール原稿送り先>

【本誌】村井正孝

〒226-0002

横浜市緑区東本郷6-22-1-420

Tel/Fax: 045-476-4112

Mail: murapu60dai@yahoo.co.jp

【別冊】金森 巖

〒227-0038

横浜市青葉区奈良2丁目10-5

Tel/Fax: 045-961-6695

Mail: ik_forester@jcom.home.ne.jp

【CCで】森本正信

〒194-0001

東京都町田市つくし野2-13-7

Tel/Fax: 042-796-6011

Mail: morimoto@bikkuri.co.jp

原稿の締切は毎月20日です。

やどりき水源林ミニガイド

9月のトピックス

萩の花 尾花 葛花 瞿麦の花 女郎花 また 藤 袴 朝顔の花

秋の七草はハギ・オバナ(ススキ)・クズ・ナゲシコ・オミナエシ・フジバカマ・キキョウです。春の食べる七草に対し秋は見て楽しむ七草です。水源林では、ハギ・オバナ・クズが咲いています。



美味しい! ヤマボウシの実 (井出氏提供)

10月の見所

・樹木の果実が熟れて色鮮やかになります。イロハモミジやカツラなどの葉が色づきます。10月18日(土)『水源林のつどい』が『第2回森のリレーフェスタ~第61回全国植樹祭 2010 かながわ~』と同時開催されます。

「森の案内人」情報

●実施時間: 毎週土曜・日曜・祝日午後1時より1~2時間程度(冬季休止)

●集 合: 水源林入口ゲート前

●内 容: 森林インストラクターが自然観察にご案内します。森林のしくみ・手入れなどについて説明いたします。

参加自由、参加費無料

*10人以上の団体は事前にご連絡ください。

●問合せ: (社)かながわ森林づくり公社 県民運動課

Tel 0465-85-1900

●ホームページ:

http://www.ny.airnet.ne.jp/k_sirrin/

●やどりき水源林までの道順

小田急線新松田駅または JR 御殿場線松田駅下車、富士急湘南バス「寄(やどりき)」行き乗車約25分。バス下車後(案内板あり)川沿いに徒歩35分。

寄大橋の右横が水源林ゲートです。

ヤマケイ・カルチャークラブ ●山岳ライター石丸哲也氏同行

「花の遠足」その時期ならではの花と軽ハイキングを楽しむバスツアーをご紹介します。

横尾山 日帰り	小浅間山 日帰り	三倉山 日帰り
出発日: 10/16(木)~	出発日: 11/20(木)~	出発日: 12/18(木)~
横浜駅西口天理ビル前 7:30集合	横浜駅西口天理ビル前 7:30集合	横浜駅西口天理ビル前 7:30集合

ご不明な点がございましたら、下記まで気楽にお問合せください。



〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-11 第7東洋海事ビル

Tel: 03(3503)1911 info@alpine-tour.com

http://www.alpine-tour.com

身近な日本の山旅から世界各地の山岳リゾートや辺境の地までアルパインツアーは自然を愛する方々を地球のデコボコへご案内します。次の山旅は、アルパインツアーで出かけてみませんか。